

平成27年度五條市教育フォーラム 教育長閉会挨拶

本日は大変長い時間でしたが、熱心にフォーラムに参加いただきましたこと、心からお礼を申し上げます。

本日のフォーラムの中では、文部科学省教育制度改革室の岩岡係長様から、現在の国の教育の動向・方向について、大変大切なお話をいただきました。特に私は、機織りのように縦軸が「小中一貫教育」で、横軸が「コミュニティ・スクール」だという発想を聞かせていただき、もう一度考えてみたいと強く感じました。

4人の子どもたちの意見発表では、大変素晴らしい思いを作文に綴って、大きな声で一生懸命に発表をしてくれました。大変嬉しく思いました。話をするときに、子どもたちに「緊張してるやろ。お茶を飲んで喉を潤して、しっかり発表してな。」と言いました。4人の子どもたちは「はい！」と大きな声で答えてくれました。そして発表してくれました。この子どもたちに、どんな教育を整えるのか。私は今日のセミナーの答えは、ここだと思っています。

私はシンポジウムを沢山見てまいりましたが、本日のシンポジウムではパネラーの皆さんが自分からマイクを取っていただき、自分の意見を熱く語っていただきました。そしてそれをコーディネーターの重松名誉教授が見事にまとめていただきました。大変嬉しく、感無量で幕の陰から聞かせていただいております。これからの五條の教育を考えるときに、私は大人のエゴで考えてはならないと確信しました。

今回のフォーラムでは、今後の学校教育に係る適正化が大きなテーマでありました。本市では子どもの数が少なくなったから、適正化を検討するものではありません。5年後、10年後、この子どもたちのためにどんな教育を整えるのか。これが適正化の、大きな目的であります。

先日、私が以前勤めていました五條高校の卒業生に出会いました。私が「君らも将来、五條で生活をして子どもさんを生み育てて、五條のために頑張ってもらいたい。先生はそんなことを思うんだ。」と、そんな話をしたときに、彼はこんなことを言いました。「先生、五條で良い教育を作らないとあかん。五條で育ったら安心だ、という教育を作らないとあかん。そうしなかったら、お父さんやお母さんは子どもの手を引いて五條から出ていくよ。」と、彼はそんな話をしました。ものすごく肩に重たいものを感じました。しかし間違いなしに、そんな期待がこれからの若者の中にあるということ、しっかりと捉えておきたいと思いました。

フォーラムの最後のところで、岩岡係長様がまとめのお話をされましたが、「五條に対してこだわりの人間を、小学校・中学校の時点からどう作るのか」というところと、大きく関わっていると感じたところです。

確かに子どもの数が減っていること、市民の数が減っていることはマイナスの要素になるかと思えます。しかしマイナスを転じて、プラスの展望が持てるようなものを、市民の皆さん、そして様々な役職に就いておられる方々、そして教育委員会と保育所・幼稚園・小学校・中学校、さらには高等学校の先生方とともに作り出すんだ！保護者の方の大きな願いをしっかりと受け止めて作り出すんだ！ということ、この機会に皆さんと一緒に確認をさせてもらえたのではと思います。ありがとうございました。

大変熱心に本日のフォーラムに参加していただき、そして熱心に学んでいただいた皆さんに心から感謝を申し上げ、閉会のご挨拶にしたいと思います。

一緒にがんばりましょう！よろしくお願いします！